

群馬県訪問看護ステーション連絡協議会だより

平成27年2月10日

## 第20号

発行 群馬県訪問看護ステーション  
連絡協議会  
群馬県医師会内  
住所 〒371-0022  
前橋市千代田町一丁目7-4  
TEL 027-231-5311  
FAX 027-231-7667  
<http://www.gunma.med.or.jp/houmon/>  
責任者 月岡関夫



### 訪問看護との出会い

群馬県訪問看護ステーション連絡協議会 副会長 柳沢 恵子

20数年前、病院勤務をしていた同郷の看護師たちが家庭の事情で退職し、訪問看護の勉強会を行っていた。まだ制度ができる前である。私も少し遅れて参加、いろいろな活動を通し行政とのかかわりが持て委託契約ながら、訪問看護を始めることができた。30代半ばの働き盛り、地域のことは何も知らない怖いもの知らずだが、看護に対する思いナイチンゲール精神は人一倍の仲間たちとの活動は波乱万丈だがとても楽しいものであった。

在宅療養がまだまだあまり認知されていない地域であったため、現状を地域の関係者に伝えるべく医師会に協力を求め、毎月事例検討会を開いた。徐々に参加者も増え医師、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師、栄養士、介護士、施設職員、ボランティア、民生委員、行政、議員、保健師、看護師等が集い意見交換を行った。そのことは、訪問看護を行う上では欠かせない横のつながりとなり在宅ケアの会として今も活動している。地域包括ケアの考え方であったように思う。

訪問看護という仕事はとても楽しい仕事である。しかし苦勞の多い仕事でもある。利用者の方をありのまま丸ごと受け止めることから始まる。自分の価値観を捨てて見ないと誤って相手を見てしまうことがあるのではないかと思います大切にしている。

訪問看護は看護師と患者という関係ではなく生活に寄り添うサポーターのように、何をすればその人を生き生きさせることができるかを探し、ともに歩むことが役割だと思ふ。思い通りの看護ができ感動したり、家族と一緒に希望をかなえて涙したり、人間の可能性も看護の原点も感じながらできるととても素敵な仕事だと思ふ。訪問看護の魅力に夢中になり長い間続けさせてもらえたことに感謝している。地域医療を支え安心して暮らすには訪問看護が要と言われている。大事に培ってきた訪問看護の可能性がこれから広がろうとしている……。

古い箱

青春いっぱい つまっていた

足利市在住 ご利用者 斉藤ちえ子様

木枯らしや

シャッター下ろして 定休日

伊勢崎市在住 ご利用者 丸橋様

去年今年 今更乍ら 米寿待つ

藤岡市在住 ご利用者 丸山太一様

我が庭に 咲きし金木犀の香りよく

遠くに風になびかれて

伊勢崎市在住 ご利用者 国定松江様

雪ちらちら

煮物コトコト コトコトと

高崎市在住 ご利用者 関 和子様

起立台 八十五度 十分間

広がる視野に アジサイあざやか

みどり市在住 ご利用者 田中 堯様

病床の我がまま言つて もがいても

看護師さんの 手の平の上

みどり市在住 ご利用者 庄司幸夫様

夫婦旅 年輪重ね 五十年

富岡市在住 ご利用者 M様

願わくば

伸びる素材の 白衣かな

富岡市在住 訪問看護師 工藤清子様

多数の投稿有難うございました。

今回載せることができなかつた作品も

今後たいように載せさせていただきます。



利用者さん、ご家族の方の  
川柳をご紹介します。

道端に 明るく和む 野菊かな

高崎市在住 ご利用者 まお様

母の日の 母は脇役 ほつき酒

中之条町在住 ご利用者 金井あき江様

ぬるま湯に つかりて嬉し

今日の風呂から

吾妻郡在住 ご利用者 関 春雄様

思い出を 残し旅立つ 花筏

パノラマの

ごとく車窓の 冬赤城

太田市在住 ご利用者 小喜多可子様

意思表示

できねど何か 楽しみを

伊勢崎市在住 ご利用者家族 井下様

デイの日は

紅さし今日も 眼が笑う

伊勢崎市在住 ご利用者家族 井下様

背の灼けし

書を引しぬ 文化の日

足利市在住 ご利用者 北詰セツ様

視力失せ 虫の世界に 近づけぬ

# 功労賞を受賞して

訪問看護ステーション つるがや 櫛谷 雅子

毎年訪問看護サミットが開催され、その中で、今年は日本訪問看護財団設立20周年記念事業の一つとして、ベルサール新宿グランドホールにて、全国から推薦された81名が表彰され、当県からは中里貴江さんと私が、表彰を受けることになりました。長い間、訪問看護に携わってきたものにとっては、とても意義のある賞であると感じています。

1983年に看護師資格を取得後、病院勤務を経て、1987年に病院からの訪問看護を開始し、1993年に訪問看護ステーションつるがやを立ち上げることになりましたが、この立ち上げの際には私は関わることができず、1995年に現職に就くことになりました。

訪問看護の歴史を振り返れば、1991年に老人保健法の一部改正で老人訪問看護制度が創設され、1992年4月から老人訪問看護制度が始まりました。この年に群馬県では3事業所が訪問看護ステーションを開設し事業がスタートしています。しかし、ステーション運営や、訪問看護の中身について、それぞれのステーションで活動しているだけでは不安ばかり募り、2年・3年と経過するうちに開設するステーションも増え、その管理者たちが定期的に集まり、お互いの交流を持ちながら、共に向上していったその集まりが、現在の群馬県訪問看護ステーション連絡協議会に至る元となった『太陽の会』です。

現在では県内100を超える訪問看護ステーションが、それぞれの特徴を生かしながら、それぞれの地域で活動しています。やがて訪れる超高齢化社会に向けて、時代は地域包括ケアへと動いています。訪問看護はまさに要となるサービスではないかと考えています。

そして訪問看護ステーションで働く看護師も世代交代の時期を迎えます。次の世代を担う訪問看護師たちに、これまで培ってきた知識や技術、訪問看護のノウハウを伝えていく事が、私たちの役目であろうと思っています。

また、10年ほど前から看護教育のカリキュラムの中に在宅看護が入ることになり、実習施設として学生を受け入れているステーションも増えて来ています。このように在宅と言う看護の提供場所を知ること、少しのやりがいを感じている学生も少なくないと思います。新卒の看護師を訪問看護ステーションで育てていく事もあってもよいと感じることもあります。

訪問看護の仕事に出会うことが出来た事、関わる事が出来た事、そしてたくさんの仲間と出会えたことに感謝し、今後の看護活動に微力ながら関わる事が出来たら幸いです。

ありがとうございました。

長年本協議会に尽力していただいた柳沢さんが退官されることになり、さみしい思いがありますが、柳沢さんの思いを受け継いでいきたいと思えます。

本当にお疲れさまでした。

また功労賞を受賞した中里さん・櫛谷さんおめでとうございます。

本号では、利用者さんやご家族の方の川柳や俳句を載せさせていただきました。多数ご投稿いただき、どれも良い作品ばかりで楽しみながら今回載せさせていただきました作品を選びました。今回載せることが出来なかった作品も今後たいように載せさせていただきたいと思えます。ご投稿いただきました皆様方、本当にありがとうございました。